（別紙4）　　平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3271100541		
法人名	株式会社しんわ		
事業所名	グループホームしんわ		
所在地	島根県八束郡東出雲町761番地1		
自己評価作成日	平成23年5月17日	評価結果市町村受理日	平成23年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouryou.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3271100541&SCD=320&PCD=32

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO島根介護ネット
所在地	島根県松江市白潟本町43番地
訪問調査日	平成23年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

●‘よりよいケアをする’を目標に課題を3つのテーマに分け、各グループで改善に向けた取り組みを検討していたが、平成21年4月に見直し、新しいテーマで全員で課題解決に向け活動を継続している。
●毎年度末、運営推進会議で利用者の様子等の事例を報告し、委員の方に取組みを評価されている。
●定期的に家族に発送する便りは、個々の様子を記載し、個別の便りにしている。また地域版の便りは、デイサービス、居宅支援事業所の情報も伝え、地域の理解を得るよう工夫している。
●敷地内に畑を作り、収穫の喜びを味わっている。
●地域のイベントに参加し、交流の場を育てている。
●空室（入院等による欠員）を利用し、待機者のショートステイを受け入れ、家族にも喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は3地区が接する場所にあり、運営推進会議では各区長や関係者の参加や協力を得て事業所の諸行事や認知症に対しての理解をしてもらえるようになった。重度化が進んで身体介護が増えているが、専門学校の講師を呼んでよりよい介護技術の習得に向け講習を受けて実践につなげたり、積極的に研修に参加できる体制を作りサービスの向上に努めている。利用者の希望に沿った誕生日の食事会は好評である。待機者のショートステイを受け入れて柔軟な対応を行い家族にも喜ばれている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係性を重視した理念を作り、ホーム内各所に掲示し、共有に努め、実践に取り組んでいる。	職員が手書きした理念が額に入れて掲示されている。地域へ配布する機関紙や個人便りに理念を掲げたりして、機会あるごとに職員の意識の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭、神社の祭り、清掃活動等地域の行事に積極的に参加し、小学生の学習の場としても受け入れている。避難訓練は地元消防団、地区住民、行政、家族の代表に立ち会ってもらい実施している。	理念を踏まえて積極的に様々な交流を図っている。町、地域の行事や活動に参加したり，小学生の総合学習で春・秋の交流をした。ボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症ケアに関わる事例報告を行い、地域に情報を広めて頂くよう依頼している。実習生の受け入れも積極的に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回以上の開催を実施し、取り組み状況の報告後は、参加メンバーからの意見を聞き、サービスの中に活かすよう努めている。外部評価の報告	事業所の状況を報告したり、職員が日々実践しているケアの事例報告を行うことにより、参加者の認知症に対する理解を深める機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービスとなり、連携が不可欠となり随時相談している。町の会議の構成員ともなり、連携を深めている。 町主催の行事に積極的に参加している。	相互に連絡を取り連携を深めながら情報交換をしている。町主催の諸行事、研修会，学習会などに参加してよい関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施した。ベッド柵を外す工夫をしている。施錠をしない工夫等拘束をしないケアに取り組んでいる。	見守りを原則として対応している。外に出られる場合も行動を止めるのでなく、出られたら職員は玄関に備え付けの携帯電話をもって対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を事業所内で実施した。虐待につながらないようなケアに取り組んでいる。物理的、言葉かけの虐待はやめる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し情報を全体会議で報告し、個々の必要性を関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別での話し合いの場を多く持ち、契約時の説明は充分行ない、理解や納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者との会話の場を多く持っているので、意見はよく表現されている。家族についても、年1回懇談会を開催し、意見交換の場としていたり、来訪時や契約の場で意見が表現されている。	面会時や介護計画作成時に意見を聞いたり、年1回の懇談会で家族同士が話す機会を作り意見の引き出しに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングだけでは意見が十分出ないので、小ミーティングの機会を多く設け、意見を反映させている。（各検討委員会、サブミーティング、年1回個別意見交換の場開催等）	管理者は現場の意見や要望を聞いている。職員の提案で台所から玄関への出入りが確認できる鏡を取り付けたり、携帯電話を購入するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日出勤し利用者と過ごし、職員の勤務状況や悩みの把握に努めている。資格取得への支援も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修参加を組み込んでいる。また、研修には本人からの参加希望も募っており、パートの職員も参加対象にしている。全体会議で報告、報告書は全職員に回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護サービス事業所間での施設交換研修、交流会参加、小規模ケア連絡会にも加入。昨年度よりグループホーム部会にも加入し、ネットワークづくりや、情報収集に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を理解する為、事前面接で要望を把握していたり、アセスメント表も生活歴を把握できるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント表に日常生活の様子が記入できるよう工夫し、不安なこと、要望を把握しやすいようにし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談し、他のサービス利用も含めながらの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にすることを理念に掲げ、支援する側ではなく利用者本人が選択できる声がけにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にできる役割を尊重し、家族と職員が支えているという関係をつくっている。（遠足同行、好物の差し入れ、病院受診の付き添い、消耗品の購入等）		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容院へは継続して行っている。馴染みの商店へ買物に行っている。	隣接するデイサービスを利用する友人の来訪があったり、いきつけの美容院へ行くことを楽しみにしゆっくりお茶をして帰られる利用者もいる。家族の協力で墓参りなどの継続が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事の席や、ドライブの時の配車なども関係の良し悪しに配慮している。利用者同士の声かけや、手伝いの場面もよく見受けられる。（お茶を入れてあげる、下膳）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても、生活の場が落ち着くまで、様子伺いや支援の協力をするように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と話し合う場面を多くし（飲茶、食事等含む）、本人の要望や意向の把握に努めている。介護計画説明の場で家族からも聞いている。気兼ねなく要望がでている。	一緒に活動する中で利用者の思いを聞いている。家族からの細かい情報を介護計画書に載せ利用者の思いや希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の来訪時に聞いたり、本人から聞いた情報は記録に残し、職員で共有し、生活に活かしている。介護計画書に馴染みの欄を設け、把握に努めるようにした。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一週間分の生活チェック表を活用して、個々の生活リズムを把握し、それに添う生活の支援をし、個々にできることを見つけ、伸ばすようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を全員でカンファレンスし、本人の気持ちに添った計画書になるよう努めている。計画書の様式を暮らしに密着したものになるよう工夫している。	モニタリングを毎月実施している。家族の希望を聞いて年間スケジュールを立て、家族と十分に話し合いながら計画を作成している。月３、４名のカンファレンスを時間をかけて検討が出来るので職員にも好評である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	有効に活用しやすいよう記録の様式も変更し情報を共有化し、介護計画の見直しにも活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の際の送迎の支援。看護師を配置し、医療面への対応をしている。ショートステイの受け入れも実施している。看取り支援にも取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、公民館とは密に連携をとっている。運営推進会議にも参加して頂き、ホーム内の理解に努めて頂いている。書道教室も地域より講師来訪で開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の継続の可能を説明しており、入所後もほとんどの方が継続されておりサポートしている。	家族の協力を得ながら支援をしている。定期受診以外の受診も多くなり通院支援の回数が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。同法人内のデイサービスの看護職員の協力も得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化による心身のダメージを極力防ぐ為、家族、医療機関と話し合い、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者については、家族等と医療面の対応を含めて話し合って方針の確認をしている。家族の協力も得ながら、生活の継続を見守っている。	状況にあわせ全体会議を行い、家族とはその都度方針の確認をしながら進めている。現在は往診の体制がないが、今後は看取りを含めて検討していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命法の学習や、訓練を行っている。夜間の緊急時対応マニュアルも整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、平成22年度より夜間想定で訓練を実施。消防、地域の消防団、住民、家族、行政の参加も得た。 スプリンクラーを設置した。	参加者が多く、訓練後、意見や指導を受け確認しあうことができた。屋外サイレンの周知徹底をした。利用者が避難した各部屋は名札を裏返すことで安否の確認をすることにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	‘より良いケアをする為に’と主テーマを掲げ、言葉遣い、接遇を見直し、改善していく取り組みをしている。尿、便の名称も配慮する名称に変更した。	利用者を尊び、利用者が気持ちよいと感じられる声がけで支援している。一人で入浴を希望される利用者の羞恥心や誇りを大切にし安全に配慮しながら支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「○○されませんか」という利用者が選択できる声がけを行うようにしている。利用者が決定する場面を作り出す努力をしている。飲茶時、誕生日の食事などに本人の希望を活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを活かす為、業務の見直しを行い、利用者と寄り添う時間を多くする工夫をし、利用者のペースを重視するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の理美容院を手配したり、外出や行事の際にはお化粧をしたり、服も外出着を用意している。整髪にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に行い、職員は利用者と一緒に食事しながら、さりげなく支援している。天候が良いと中庭で食事をしたり、外食も時々計画している。畑から野菜を取ってくる利用者もいる。	利用者は畑でできた野菜を使い下ごしらえを一緒にしたり、台ふき、箸並べの準備をしている。片付けも車イスに載せて運んだりして利用者が出来る方法で参加できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の一日の水分摂取目標を設定し、摂取量を記録して情報を共有している。お茶が進むよう湯呑茶碗を工夫したり、家族にも差入れの工夫等協力してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の口腔ケア支援を行ない、就寝前には洗浄液につけている。年1回、協力医院による歯科医の検診実施。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの生活リズムに合わせてトイレ誘導している。尿とりパットを昼夜使い分けるなどの工夫をしている。	可能な限りトイレでの排泄を支援している。居室では利用者の状態に合わせて手すりの位置や高さを工夫している。	介護専門家の指導を継続して受けられ、安全で楽な介護技術の習得をされることを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取表を利用。飲食物（乳製品含む）の工夫を行い、予防に努めている。腹圧をかけたり、運動との関連にも取り組んでいる。下剤の量も適時調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日、時間を決めず、本人の意志を尊重している。浴槽内にも納得するまで入っていることができる。シャワーチェアーを利用するなど本人の負担を軽減し、入浴を楽しんでもらう工夫もしている。	毎日入浴できる。嫌いな方には無理強いせず状況を見て誘導している。脱衣場も車イスで使用出来るようにしたり、浴槽内には移動バーを改善して安全に出入り出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事、お茶の呼びかけ等眠意の強い方は、希望通りにしている。就寝も本人の希望で居室に入り、眠れない時には、飲物を準備したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を個人ファイルに整理し、情報の把握に努めている。服薬確認は、手渡しを徹底している。下剤服用は、本人の状態に合わせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事的仕事も個々に合った内容を検討し、支援している。役割が果たせた時は感謝の言葉を伝えるようにしている。気分転換に外出、外食も相談している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りでの（畑、玄関前等）外気浴、外食、ドライブ、自宅への帰宅、中庭での食事等、利用者の希望による戸外への外出を支援している。地域の行事にも出かけ楽しんでいる。	利用者全員で外出することは困難になってきた。野菜の収穫に出る人、町民会館での演芸会に行く人、ドライブ、自宅への帰宅など、希望に応じた支援をしている。	個別に利用者の状況、体調に合わせての外出支援を工夫されることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に財布を所持してもらい、外出時に持参している。置き場が常時変わる人であっても本人に管理してもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をして用件を話される時は、手配したり、贈り物が届いた時、お礼の電話の取次ぎの支援も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式で、利用者の表情の把握ができる。カーテンで日光の調節をし、和室窓から四季の風景が楽しめる。中庭にはベンチも設置して憩いの場としている。	中庭にはウッドデッキがあり樹木や野菜が植えられていて、季節感が感じられる。所々にソファーやイスが置かれ、利用者は思い思いの場で過ごすことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファー、廊下にも椅子、ソファーを置いている。食堂では、気の合った人との席づくりをしている。和室の利用も自由で、横になり外の風景を楽しむ人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物の持込みを依頼している。ホームの生活の中での笑顔の写真が飾ってある。	居室は明るく、清潔に保たれている。利用者一人ひとりに合った手すりが工夫されている。使い慣れたタンスや三面鏡を置いたり、テレビや壁には家族の写真を飾り、利用者の作品が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子で移動しやすいように配慮している。室内の手すりは使う人が使い易い位置に設置している。		